

対立から調和へ

バランス感覚が立命の原点



新立命義塾 易徳庵

住所 東京都台東区浅草橋1-11-6

浅草橋事務所ビル2F (右側入り口から2階)

電話番号 03 (6661) 1073

責任者 易徳大有

業務内容 運命鑑定・運命学教室・立命学習塾

e-mail itokuan@gmail.com

HP <https://www.itokuan.com>

現代における運命学の可能性

一危機意識の向こうにある新たな“光”

ただ生きることではなくよく生きること、財産や身体を気づかうこと以上に、『魂を気づかうこと』にあると説いたソクラテスの弟子であるプラトンが「タウマゼイン（驚嘆）」という言葉キーワードとして哲学の始りとした。伝統的哲学はこの起源から、「形而上学」と呼ぶ分野を形成し、驚嘆を動機とし哲学こそ諸学の根本的学問であり、過去の歴史上最上位のものとして位置付けた。

近代に入り、科学主義の勃興により形而上学が神学と存在論に分離し、絶対的認識の根拠である「神」の概念が揺らいで行く一方、それと反比例するように科学技術が高度に発達し科学万能主義の文明を構築し、人間中心主義の考えが世界を覆う。こうした科学文明の際限なき発展により、あたかも人間は世界を支配し愉しんでいるかのように見えるのであるが、実はこの人間自らが生み出した「科学」が自分たち自身の存在の根幹を揺るがすような予想だにしない威力を発揮している事態を招い

ている「戦慄（せんりつ）」と背中合わせであることに直面している現実があることに気づく。

してみると現代社会の中で、現実の当たり前と感じている日常の安定性が、実は自明のものではなく、一瞬にして総崩れしてしまうかもしれない断絶が起こりうる事件をたびたび目の当たりにする。こうした現実我々は不可解さや無力感を味わう。このことが現代の「危機」といってよい。

しかし、現代社会に生きる我々は、この「戦慄」を目の前に、思わず知らずのうちに問いを発するという、科学的成果の中でいかに生きるのか、これこそが現代における本当の運命学である。あたかも「光と影」があるように、問題が根深く克服が困難であればあるほど、そこに光をあてようと格闘する「生きる」学問が浮き彫りになってよい。まさに闇が深ければ深いほど、光は輝く。現代に生きる上で自ら自身が運命を考察していくことは、かつてないほどの価値が付与されるのである。

(易徳大有)

[運命鑑定・教室・立命セミナー開講受付中]